

ピロリ菌と胃の病気

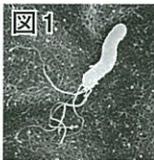
—胃がんを予防しよう—

【はじめに】

胃の中に住むピロリ菌をご存知ですか？ピロリ菌は慢性胃炎、胃がん、胃潰瘍など様々な胃の病気と深く関わっており、ピロリ菌に感染していると、胃がんになりやすいことがわかっています。日本ヘリコバクターピロリ学会では、胃がんをはじめとする様々な病気を減らすこと、次の世代に感染を拡げないことを目的として、ピロリ菌に感染している人に治療を受けるように勧めています。

【ピロリ菌って】

ピロリ菌は、正式にはヘリコバクターピロリ(図1)といい、ヒトの胃に生息します。ピロリ菌は、ウレアーゼという尿素を分解する酵素を持っているのが特徴です。ウレアーゼにより尿素を分解してアンモニアをつくり、胃酸を中和して生きています。

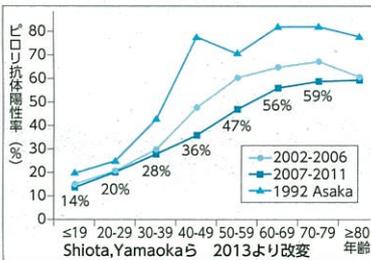


【感染は、家族内とくに親から子どもへの感染が多い】

現在、日本人でピロリ菌に感染している人は約3500万人と推定されます。年代別の日本人のピロリ菌感染率では、若い世代の感染者は減り、50歳以上ではまだ高い

図2

感染率となっています(図2)。ピロリ菌はヒトからヒトへ、口から感染します。衛生環境の整った現在では、主に家族内での感染、特に母親から子供への感染が多いといわれています。多くは乳幼児期に感染し、治療しない限り感染が持続します。お子さんが感染しないためには、妊娠、出産前に家族がピロリ菌の検査、治療しておくことが一番の予防と思われま



【ピロリ菌は胃がんや様々な胃の病気と関連している】

ピロリ菌

は、感染すると、胃に慢性の炎症をおこします(ヘリコバクターピロリ感染胃炎)。ほとんどの人は症状がありません。炎症が持続すると、萎縮性胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃がん、過形成性ポリープ、胃マルトリンパ腫などを発症します。早期胃がんを内視鏡治療したのちピロリ菌を除菌した人は、除菌しなかった人と比較して、3年以内に新しく胃がんが発生する頻度が3分の1になったと報告されました(図3)。ピロリ菌を除菌すると胃の炎症が改善し、胃がんの発症を減らすことができます。早く除菌すればするほど、効果が高いといわれています。

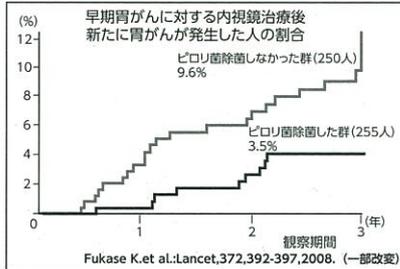


図3

【ピロリ菌の検査、治療の保険適応がある疾患】

内視鏡で診断されたヘリコバクターピロリ感染胃炎・胃または十二指腸潰瘍・胃マルトリンパ腫・早期胃がんに対する内視鏡治療後・特発性血小板減少性紫斑病の人が保険適応になります。

【検査方法はいろいろ】

内視鏡を行う方法と行わない方法があります。どの検査も100%正しく判定できるわけではありません。検査方法の選択や、結果の解釈については、医師にご相談ください。(表1)を参照して下さい。

【治療(除菌)は1週間の内服】

ピロリ菌の治療は、3種類の薬、すなわちプロトンポンプ阻害薬(胃酸を抑える薬)と抗生剤(アモキシシリンとクラリスロマイシン)を朝夕1日2回1週間内服します。内服中は禁煙するほうがいいでしょう。継続してきちんと内服しないと効果がないばかりか、耐性菌の原因にもなるので、指示通り内服する必要があります。副作用は下痢、湿疹、味覚異常などで、中止が必要であるほどの重症例は数%です。ペニシリンアレルギーのある人は医師にご相談下さい。

【除菌後は成功したか検査が必要】

内服した後に、除菌判定の検査を受けることが必要です。除菌薬内服後、2か月以降に、通常、尿素呼気試験か便中抗原検査で判定します。一回目の除

表1 ピロリ菌の検査方法

内視鏡を使う方法

- ①迅速ウレアーゼ検査**
採取した胃の粘膜をPH指示薬の入った容器に入れ、ピロリ菌のもつ酵素で作られるアンモニアで変色するかを調べ、菌の有無を判定する。
- ②鏡検法**
採取した胃の粘膜を顕微鏡で観察し、菌の有無や炎症の程度などを調べる。
- ③培養法**
採取した胃の粘膜を培養し、ピロリ菌が増えるか調べる方法。施設により感受性試験も可能。

内視鏡を使わない方法

- ①尿素呼気試験**
検査薬を飲み、服用後の呼気を集めてピロリ菌に感染しているか調べる方法。精度が高い。
- ②尿中または血中抗体**
ピロリ菌に感染すると抗体ができる。この抗体の有無を血液や尿で調べる簡便な方法。
- ③便中抗原検査**
便を採取し、ピロリ菌抗原を調べる方法。



菌(一次除菌)で、75%~80%の人が成功します。判定の検査で陽性(一次除菌不成功)の場合、お薬を変更して二次除菌を行います。二次除菌に不成功の場合、以後の除菌は保険外の自費診療で行います。専門医にご相談ください。

【除菌後の注意点】

除菌成功後に、胃酸分泌が回復し、胸焼けなどの逆流性食道炎の症状が現れることがありますが、一時的なもので、重症になることはありません。除菌後も胃がんが発見されることがあります。定期的に内視鏡検査や胃の検診を受けることが大切です。

【最後に 若い世代にも検査を】

胃がんの多くはピロリ菌が関与しています。ピロリ菌感染を指摘された人、以前に除菌治療を受けた人は内視鏡検査を受けましょう。またピロリ菌は家族内、特に親から子供への感染が多いので、ご家族、若い世代にも検査を勧めて頂きたいと思えます。たとえば成人式や結婚を機会に、感染診断を受けるのも良いかもしれません。40歳までにピロリ菌の除菌をする方が胃がんの予防効果は大きいですが、遅すぎることはありません。検査をまだ受けたことのない方は、まずは医師にご相談ください。